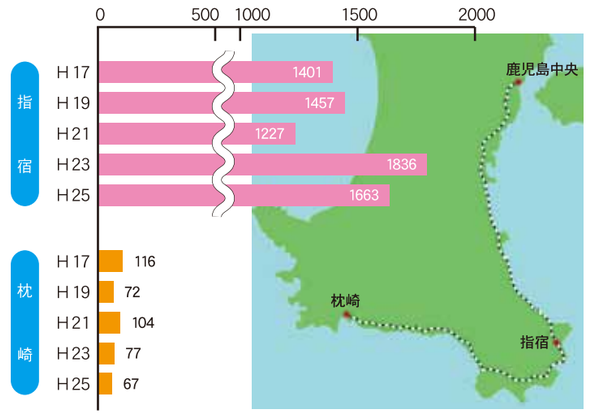
守り続けよう「指宿枕崎線」

枕崎には、日本でたったひとつしかない「オンリーワン」の魅力があることを皆さんはお気付きでしょうか。それは「日本最南端の始発終着駅・枕崎駅」です。

枕崎に住んでいる私たちは、枕崎駅の存在を当たり前のように感じているかもしれません。しかし、「日本最北端・稚内駅」から南北3000キロ以上続く鉄路の終点である「日本最南端の始発終着駅・枕崎駅」の存在は、全国の鉄道ファンの旅心を魅了してやみません。

●1日あたりのＪＲ指宿枕崎線の指宿駅と枕崎駅の乗降客数



指宿枕崎線は、昭和38年に全線開業して以来、昨年で50周年を迎え、その間、南薩地域の産業と地域活性化に貢献し、さらには地域住民の通勤・通学など日常の生活路線として、なくてはならない路線です。しかし、グラフからもわかるように枕崎駅の1日あたりの乗降客数は年々減少しているのが現状です。

平成23年3月12日に、九州新幹線が全線開業し、鹿児島から大阪まで最短3時間45分で結ばれました。そのことにより九州はもちろん、関西圏まで含めた商圏の拡大や、観光をはじめとした交流人口の増加などさまざまな波及効果が期待されました。

しかし、指宿駅の乗降者数は全線開通を境に増加しているものの、枕崎駅の乗降客数は伸びていないのが現状です。

この事態をどうにかしようと、各団体等でさまざまな動きが行われています

新たな観光拠点の誕生

平成18年に旧駅舎が解体され、駅にはホームのほかには何もありませんでした。

それを見た市民や本市出身者などから「駅舎がないのは寂しい」という声が多く上がる中、枕崎駅舎建設期成会が発足したのが平成24年3月のこと。「駅舎をみんなの力で建てよう」と駅舎建設などにかかる費用として市民や本市出身者、鉄道ファンなどに寄附を募ったところ多くの方々から賛同をいただき、約1年後の4月28日、みんなの思いが詰まった枕崎駅舎が完成しました。

駅舎完成にあわせて、市の積極的な要望が採択され、県の「魅力ある観光地づくり事業」による駅周辺整備が平成24年度から始まり、現在も進められています。平成24年度は、駅舎出入り口付近の「出会いの広場」や「展望デッキ」を整備、平成25年度は「トリックアート」舗装や「階段・スロープ」の設置などが行われました。8月より整備が始まった今年度事業では、鰹一本釣り船をモチーフにしたトイレ、屋台村や産業市等のイベントにも利用できる屋根付きベンチ、まち歩き・食べ歩きなど枕崎観光の起点となる、まち歩き送迎ロータリーの整備が行われます。本事業は来年2月に完成予定で、枕崎に新たな観光拠点が誕生します。

南薩が一体となって

ＪＲ指宿枕崎線の列車を柱に、南薩観光の活性化を目指す沿線の観光関係者などで組織する「夢たまプロジェクト」は、昨年11月の発足以来、会合やさまざまなイベントを企画・実施しています。

今年の2月4日には、ＪＲ九州の観光特急「指宿のたまて箱（通称・いぶたま）」が臨時列車として初めて指宿～枕崎間を駆け抜けました。沿線では地域住民が手を振ったり、ホームや駅舎にも「いぶたま」を歓迎しようと集まった大勢の人たちでにぎわいました。

完成イメージ図

しかし、3月にＪＲ九州からいぶたまの今後の運行については「困難」と、夢たまプロジェクトに伝えられました。

それからは、各沿線地域の特色を生かした列車内でのおもてなしを柱に、鉄道とバスを組み合わせた南薩全体の広域観光コースを開発し、鉄道の利用促進、周辺地域の観光浮揚につなげていこうという取り組みが進められています。

枕崎の「おもてなし」

大手旅行会社が企画する旅行ツアーなどで、枕崎駅に滞在し、それから西大山駅まで鉄道を利用するコースも定期的に組み入れられているものが増えてきました。駅に到着した列車から降りてくる観光客を迎えたのは観光ボランティアガイド「花渡川クラブ」のメンバーや市民有志たち。観光客に枕崎駅に滞在する時間を目いっぱい楽しんでもらおうと、ぶえん鰹や鰹節、お茶などのふるまいや特産品販売など枕崎ならではの方法で観光客をもてなします。

▲観光客を笑顔でもてなす市民有志たち

「指宿枕崎線」を維持

指宿枕崎線沿線４市（枕崎市、鹿児島市、指宿市、南九州市）で構成する指宿枕崎線輸送強化促進期成会は、8月22日、福岡市にあるＪＲ九州本社を訪れ、「枕崎駅へのトロッコ列車の運行」や「ダイヤの増便」などの要望活動を行いました。

その中で、神園征市長は「指宿枕崎線の廃止の検討」という報道がなされたことの真意について、ＪＲ九州に回答を求めました。

それに対しＪＲ九州は、「社長はそのような発言はしていない。ＪＲ九州としてもあのような曲解した報道がなされ困っている。あの発言の真意は『今あるローカル線が100年後にどのような姿になっているかは、誰にも想像がつかない。しかし、今後も各地のローカル線を存続するために、沿線市町村の皆さんと一緒になって懸命の努力をしていきたい。沿線住民の皆さんも、もっと鉄道を利用して欲しい』というものである」と回答しました。

▲ＪＲ九州への要望活動

枕崎駅舎の建設や周辺整備が進められるなど、枕崎駅を取り巻く環境は年々進化をみせています。日本で枕崎だけにしかない「日本最南端の始発終着駅・枕崎駅」を守り続けていくためには「指宿枕崎線の継続」が必要となってきます。

「枕崎駅」と「指宿枕崎線」を守っていくために、私たちが一体となって知恵を出し合い、地域や学校などの行事で列車を利用するなど、あらゆる面での利用促進に向けた取り組みを実行に移していくことが、これからのまちの活性化につながっていくのではないでしょうか。